

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2017 秋号 **80**

公益財団法人 和歌山県文化財センター

特集

## 田屋遺跡第2次発掘調査



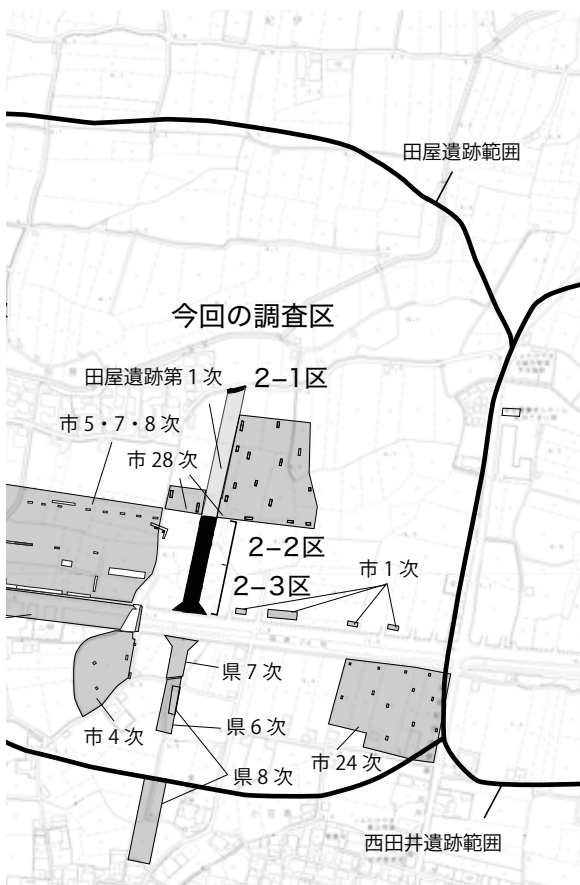
# 特集 田屋遺跡第2次発掘調査

## はじめに

和歌山県が計画しました県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良工事に先立ち、和歌山県より委託されて田屋遺跡の第2次発掘調査を行いました。この道路改良工



田屋遺跡位置図



調査位置図

その後の発掘調査でも多くの竪穴建物や掘立柱建物が発見され、弥生時代から古墳時代を中心とした県内でも屈指の集落遺跡として広く知られる遺跡です。

事に先立つ調査は、平成27年度から実施しており、平成27年度の発掘調査を第1次発掘調査、同28年度から同29年度にかけての発掘調査を第2次発掘調査としています。第2次発掘調査は、平成29年2月から平成29年8月にかけて行い、調査面積は合計1,782㎡です。調査区

は、他の工事等との関係から北から2-1区、2-1-2区、2-1-3区の3つに分けて実施しました。

## 田屋遺跡とは

和歌山市田屋・直川に位置し、紀ノ川右岸の沖積平野氾濫原ちゅうせきへいやはんらんげんに所在する弥生時代後期から古墳時代を中心とした集落遺跡です。一般国道24号建設事業に伴い発見された遺跡で、1980年代に実施された発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴建物や古墳時代中期から中世までの掘立柱建物ほったてばしら、自然流路などが発見されました。また、陶質土器や韓式系土器かんしきも出土し、朝鮮半島との密接な関係も推測されています。

## 発掘調査の成果

### 2-1区

今回の発掘調査区で最も北側に位置し、調査面積は11㎡です。調査の結果、古代末から中世の流路1基、時期不明のピット1基を確認しました。流路は、検出位置及び遺構の種別から第1次発掘調査で検出された遺構の延長とみられます。第1次発掘調査では、埋土上層から瓦器が出土していません。一方、ピットからは出土遺物がなく、

時期は明確ではありません。

### 2-2区・2-3区

平成27年度に実施した第1次発掘調査の南側に位置する調査区で、調査面積は1,771㎡です。調査の結果、中世以前とみられる掘立柱建物2棟、古墳時代中期前半の竪穴建物1棟、古墳時代中期後半から後期前半の竪穴建物14棟、流路6基以上、その他多数の土坑、ピット、自然流路などを確認しました。

また、調査区北端から南へ30m付近で

北東から南西にかけて遺構面を削り出して造られた大規模な畦畔状遺構を検出しました。

この大規模畦畔は、調査区東壁土層断面から中世の水田において踏襲された様相を伺うことができます。また、遺構面直上の層から今回瓦器が出土したことから、当該地の遺構面は今回確認された標高より本来高く、水田に適した水平地盤を得るため、中世に大きく削平された可能性があります。

掘立柱建物は2棟あり、時期の分かる明



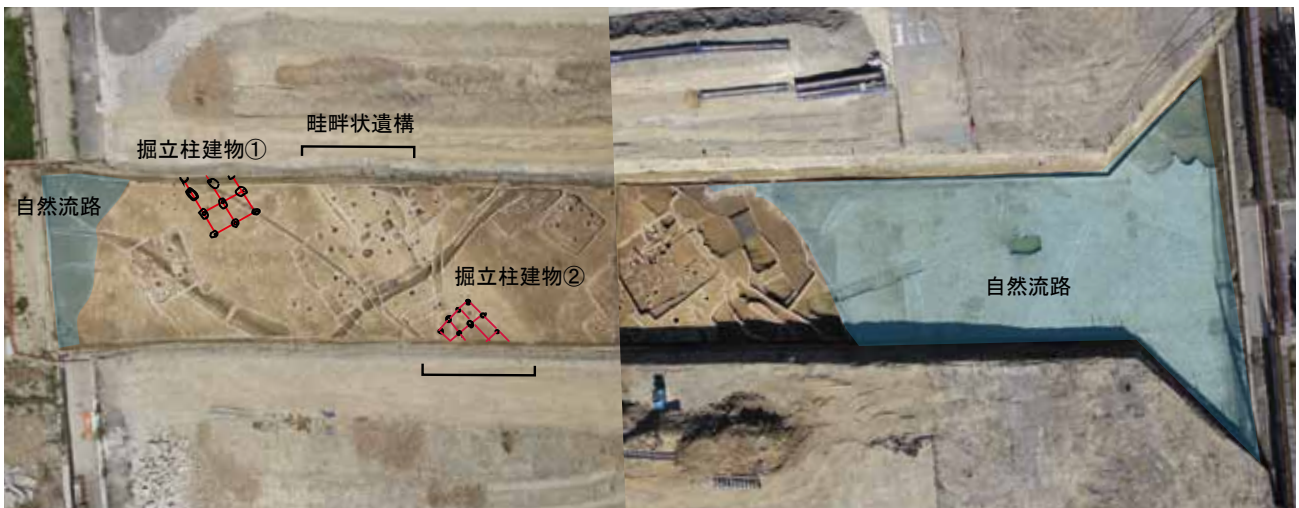
2-1区全景（東から）



2-1区流路（西から）



2-1区ピット（南から）



2-2・2-3区調査区全景（西から）



2-2区掘立柱建物（西から）

瞭な遺物は出土していませんが、埋土の色調や粒度等から中世以前のものである可能性があります。掘立柱建物①は2間×3間以上、掘立柱建物②は3間×2間以上で、いずれも調査区外へ広がるため、全容を確認することは出来ませんでした。

竪穴建物は、いずれも一辺3.0〜6.0mで平面形は方形を呈します。竪穴建物内には造付けカマドや柱穴、貯蔵穴、小溝、炬状遺構等



2-3区竪穴建物（上空から）

が確認されたものもあり、中にはカマド内に据え付けられた土器が残された状態で検出されたものもありました。また、焼失した屋根材が残る竪穴建物も1棟確認されており、竪穴建物の屋根組の一部が推測できる貴重な成果を得ることができました。

流路は、幅約0.3〜1.0m程度で、深いもので深さ1.0m程度残存します。おおむねそれぞれ直行する方向に向かって検出さ



2-2区焼失竪穴建物

れたことから、計画的に配されたものと考えられます。

自然流路は、調査区南北でそれぞれ確認されました。北側自然流路は、第1次発掘調査でも確認されており、北東から南西に向かつて流れる流路で幅員20m程度であることが判明しました。この自然流路の時期は、埋土から出土した土器から、古墳時代後期には埋没が始まっていたと考えられま

す。南側自然流路は、今回の発掘調査地より一般国道24号を挟んで南側で当センターが実施した第7次発掘調査区北側で検出された自然流路の延長とみられ、北東から南西に向かつて流れる幅員80m程度の流路であることが判明しました。この自然流路の埋没時期は、既往の調査成果に鑑みても古代に始まり中世には完全に埋没していたものと推定されます。

## まとめ

今回の発掘調査の結果、2-1区では古代末から中世の流路等を確認しました。流路は、今回の発掘調査を実施するまで調査区北側を東西に流れていた六箇井用水の支流に向かうことから、六箇井用水の成立時期が不明確であるものの、関連性が推察されます。

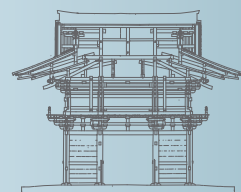
2-12・2-13区では、微高地上に展開する中世以前とみられる掘立柱建物2棟、古墳時代中期前半から後期前半の竪穴建物15棟、その他多数の土坑等が検出され、当

該地に集落が展開することが新たに判明しました。検出された遺構の密度は高く、周辺部にも同様の微高地が広がり、集落が展開するものと推定されます。

田屋遺跡では、現在のところ古墳時代後期後葉から奈良時代までの建物跡が検出されておらず、今回検出された竪穴建物群は、田屋遺跡の集落終焉期にあたります。こうした時期の竪穴建物がこれほど多く密に検出された事例は少なく、田屋遺跡の集落終焉の実態を明らかにするうえで、極めて貴重な成果を得ることができました。

また、今回の発掘調査でも古墳時代以降の古代の様相は明瞭ではなく、遺構面上層で瓦器を含む包含層が堆積することや遺構面を削り出して造られた大規模畦畔が中世の水田で踏襲されていることから、当該地は中世に地形が大きく改変され、畦畔の削り出しと水平地盤の成形がなされたものと考えられます。以降、当該地は水田として利用され現在に至るものと考えられます。

(金澤 舞)



## 新現場紹介

— 上杉謙信霊屋 —

高野山は奥院、一の橋手前で一礼して歩を進めること約五分、左手斜面の杉木立と無数の石塔に紛れて木造の建物が見えてきます。参道を左に逸れて緩やかな坂道を登りはじめると、今にも飛び立ちそうな軽やかな檜皮屋根を載せ、木部には彩色が施された小ぶりの建造物が一棟、正面に現れます。今回ご紹介する、上杉謙信霊屋です。

建てられた年代は判明していませんが、細部の意匠などから江戸時代前期頃の建立と推測されています。実際、江戸時代に描かれた古絵図には、同様の建物が現在の位置に記されています。しかし現在と異なるのは、同規模・形式の建物が二棟並んで描かれている点です。では、もう一棟はどこへいったのでしょうか。

ところで、この建物は昭和四〇年五月に国の重要文化財に指定されましたが、その年の九月に来襲した台風二三号によって背後の

樹木が折れて直撃し、大きな被害を受けました。そして翌年より解体修理が実施されます。その時の調査により、この建物には二棟の異なる建物の部材と、その後の修理材が混在して使用されていることが判りました。つまり、元々二棟あった建物が、破損が進んで修理をする際に、部材を一纏めにして一棟だけ残されたのです。

改めてよく見ると、現在の霊屋の東側にはちょうど同じ広さの空き地があります。また、霊屋内部には謙信と景勝の石製位牌が並列して祀られており、一

方が他所から持ち込まれたと推定できません。そして何よりも、柱の頂部側面に突出する「木鼻」には、明らかに異なる二種類の形が存在するので、このような荒技がいつ行われたのか



修理前の上杉謙信霊屋（全景）



古絵図に記された霊屋（寛政5年（1793）、持明院蔵「高野山奥院総絵図」「高野山古絵図集成」より）

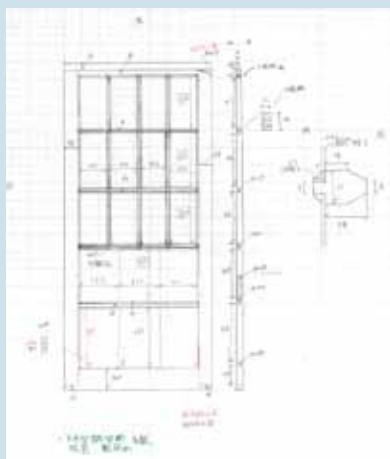


柱、木鼻と組物。左右で木鼻の形が異なる。

は判りませんが、江戸時代後期の絵図には二棟描かれているので、それ以降と推定できます。今から考えると大胆な修理手法ですが、維持が困難になってきた建物を、負担を減らしつつ、少しでも後世に伝えたいという痛切な思いがあったのでは、との想像を禁じ得ません。このようにして護り伝えられてきた霊屋は、平成七年に再度檜皮の葺替が行われましたが、その屋根も摩滅が進んで耐用年数に達したため、平成二九年六月から檜皮屋根の葺替工事が実施されています。（結城 啓司）

実測という、建物の形や特徴を「野帳」に記録していく作業があります。野帳には、修理中の建物を詳細に計測するとともに、痕跡や破損状況を調査し、考察したことを記します。その時に、四色ボールペンを使用しています。部材の情報を紙に記録するときに、色分けを上手に活用することで、見た目にもわかりやすい野帳を作成することが出来ます。主に使用しているのは黒、赤、青、緑の四色ボールペンです。色の使い方は人それぞれですが、私の場合、赤色は破損やこれまでに修理された場所の寸法、青色は補強用金具等の付け足されたもの、緑色は記録の最中に気が付いたことを描くときに使うようにしています。そうすると、色でそれぞれの分量を視覚的に確認できるので、一目で特徴を掴みやすいと考えています。

実際に、あわててスケッチを描いて、寸法などを測って書き入れる作業をした後にふり返ってみると、自分が製図する際の参考にしか使えないような野帳が出来上がっていることに気が付くことがあります。破損の原因や部材の詳細な部分、見えにくい痕跡の観察が足りず、考察が出来ていなかったことを、色分けした情報を整理するときに、実感したのです。落ち着いて、深い洞察力を持って臨み、資料として、わかりやすい野帳を目指しています。



野帳の例 (建具)

（大給 友樹）

## きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

### お金の値段

埋蔵文化財課

考古学に携わっている人間が発掘調査で出土した遺物に値段をつけるのは良くないことかもしれません、ここでは、ちょっと掟破り。平成15年に実施された白浜町八幡山城跡の発掘調査で、中世の遺物に混じって日本最古の流通貨幣とされる「富本銭」が出土しました。富本銭は中央の方孔上部に「富」、下部に「本」を表す「本」の文字、左右に七曜の図柄をもちます。出土遺物を整理していて、「富本」の文字をもつ銭貨見つけた時は、それはもう驚いたものでした。もちろん本物と信じて、奈良国立文化財研究所で鑑定をお願いしたところ、富本銭の工房跡である奈良県飛鳥池遺跡や全国各地で出土しているものに比べ、「富」がワかんむりの「富」であること、中央の方孔の縁幅が広いこと、富本銭の特徴とされるアンチモンの含有率が低いことなどから、古代の富本銭を模倣して中世以降に製造されたものと判断されました。ところが、平成19年、奈良県藤原京跡の発掘調査で、八幡山城跡のものと同じ特徴をもつ富本銭が8枚出土しました。アンチモンの含有率も、バラつきがあり、まったく含まないものもありました。これにより、八幡山城跡から出土した富本銭も、古代に製造された本物である可能性が高くなりました。



飛鳥池遺跡出土(左) 八幡山城跡出土(右)

さて、テレビ東京の「開運！なんでも鑑定団」で、藤原京跡・八幡山城跡と同じタイプの富本銭が鑑定依頼され、一千万円の値段がつけられました。写真は八幡山城跡と飛鳥池遺跡出土の富本銭。八幡山城跡出土の富本銭は欠けていますが、これでないとい値段がつけられません。買いい手(欠いて)ないと値段はつかないものだから。

(川崎 雅史)

## 催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2017年秋～2017年冬)

### 和歌山県立紀伊風土記の丘

- 秋季特別展「道が織りなす旅と文化」 2017年 9月30日(土)～11月26日(日)
  - 特別展リレー講演① 2017年 10月21日(土) 13:30～15:30
  - 特別展リレー講演② 2017年 10月28日(土) 13:30～15:30
  - 特別展リレー講演③ 2017年 11月 4日(土) 13:30～15:30
  - 特別展リレー講演④ 2017年 11月11日(土) 13:30～15:30
- フカミンのおしゃべり考古学④ 2017年 11月15日(水) 13:30～15:00
- 学芸員講座「岩橋千塚③」 2017年 11月25日(土) 13:30～15:30
- 第8回 風土記まつり 2017年 11月19日(日) 10:00～15:30

### 和歌山県立博物館

- 企画展「西行と明恵」 2017年 9月9日(土)～10月5日(木)
- 特別展「道成寺と日高川 -道成寺縁起と流域の宗教文化-」 2017年 10月14日(土)～11月26日(日)
- 企画展「南葵音楽文庫 音楽の殿様・頼貞の楽譜コレクション」 2017年 12月3日(日)～2018年 1月21日(日)

### 和歌山市立博物館

- 特別展「幕末の紀州藩」 2017年 10月21日(土)～11月26日(日)
- コーナー展示「藩主からの拝領品」  
「加太と葛城修験」 2017年 10月 3日(火)～12月3日(日)
- 史跡散歩「加太を歩く」 2017年 10月14日(土)

### 高野山霊宝館

- 第38回大宝蔵展「高野山の名宝」平家物語の時代と高野山 2017年 10月14日(土)～12月3日(日)

掲載内容は、変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

#### 目次

- 1 表紙「田屋遺跡第2次発掘調査 2-2区全景(北から)」
- 2 特集「田屋遺跡第2次発掘調査」
- 6 文化財建造物課 短信「新現場紹介 - 上杉謙信霊屋 - 」
- 7 きのくに歴史小話「四色ボールペン」  
「お金の値段」
- 8 催し物案内

## 風車80 (2017・秋号)

平成29年9月30日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp>

(公財)和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1  
TEL 073-472-3710  
FAX 073-474-2270  
kanri-2@wabunse.or.jp